



「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」

第26回

埼玉労働局長(阿部充)の企業トップ訪問



ポジティブ・アクション普及促進のシンボルマーク

「きらら」

～見せる経営へ そして未来へ！～

平成26年10月7日、石坂産業株式会社の石坂代表取締役社長をお訪ねしました。
石坂専務取締役、経営企画室熊谷室長の同席によりお話をお伺いしました。

訪問企業:石坂産業株式会社

入間郡三芳町上富緑1589-2
代表取締役社長 石坂 典子

主な事業:

産業廃棄物中間処理リサイクル事業
労働者数: 82名(うち女性23名)



- ・平成25年度 経済産業省のおもてなし50選に選ばれる
- ・平成26年度 文部科学大臣賞のおそうじ(環境整備)大賞を受賞

局長に同行して

産廃でおもてなし!それは、車で駐車場に入るところからすでに始まっていました。
こちらから名乗る前に「お待ちしていました」と出迎えられ、事務所には朝摘みの花が
季節を感じさせてくれました。

女性の活躍

産廃で女性の活躍ができるのかと思われるかもしれませんが、受付、企画、営業、人事労務管理部門では約6割が女性で占めている状況です。



また、育児や介護がある者については、勤務時間を自由に選択できるようにもしています。さらに、子育て期にある者を抱える会社のリスク回避対策として、誰が休んでも対応できるよう、業務のダブルスタンダードを取り入れ、作業も単能工ではなく、多能工になれるよう教育をしています。それぞれがカバーできるため、休暇が取りやすく、またそのため

にタイムマネジメントも上手になっています。

また、会社の敷地の約161,000㎡の内の約8割がくぬぎの森であり、美しい森を次世代に引き継ぐために森の管理を行ったり、第6次産業にも取り組んでいます。その取組の中で森の管理人であったり、野菜作りであったり、新鮮な野菜の販売であったりと女性の働く環境も増えてきています。

もともと、女性、男性という意識はありません。適性・能力などその人の個性にあったところで働いてもらいたい。性別や年齢に関係なくその人にあったところで100%能力が発揮できる場所を作ることが大切だと思っています。

人材教育が大切

自らが学べる環境づくりに力を入れています。職能にあった知識を身につけるために自社の訓練校として石坂技塾を作りました。講師を外部のみならず、従業員が講師となりお互いに知っていることを教え合います。受講者はもちろん講師となった従業員にとっても「人に教える」というOJTの機会にもなります。

また当社では見せる経営をしています。それも人材教育、社員の成長につながっています。



工場の見学コースをつくり、地域の方や子供たちなどに見てもらっています。従業員は見られることにより意識が変わってきました。お客様の声によって励まされ、社長から指示されてやるのではなく、自分たちで見せるための改善や自分たちの職場環境をもっと良くしようという自発的な活動に変わってきています。

見ってもらうことで社員も仕事を磨き、働く誇りをもってもらえることができます。

女性目線の経営改革

私が社長になった時、石坂産業はグラウンド0からのスタートではなく、アンダーからのスタートでした。

従業員に気持ちよく働いてもらえるよう、また、産業廃棄物処理業を正しく理解してもらいつつ地域に迷惑がかからないように、お客さんを気持ちよく迎えらるよう「三方良し」の気持ちから始めたことがあります。



まず、地域の皆さんへの取組としては、先ほどの見学会もそうですが、露天が

当たり前の産業廃棄物をすべて建屋の中に入れ、一切ホコリを出さないこと、出入りのトラックのタイヤも搬出時にすべて溜めておいた雨水で洗い流すことを徹底しています。

また、工場の周りには昔から広がるくぬぎの森があり、美しい森を管理し次世代に引き継ぐこともその一つと思っています。

会社に来ていただいたお客様には「おもてなし」の心と気遣いを、そして出入りのトラック運転者のためには明るい休憩所も用意しています。

こうした取り組みを続け、時間はかかりましたが、ようやく地面に出てきたかなと思っています。

まだ、やらなくてはいけないことがあります。社長だけが走っても意味がありませんので会社一致でやっていかないといけないと思っています。そのためには時間がかかりますが、これからの次世代をどのように育てていくか大きなテーマだと思います。



局長からひとこと

地域の人から見てもらうこと、いろいろな目線が入ってくことで社員が変わり、働く環境が変わっていらっしゃる。これを改善しようと思ってやっているのではなかったことが結果的に改善につながり、全体的にいい方向への底上げにつながっているようです。

適正に応じた配置や多能工などを作ることで、休んだときのバックアップができ、働きやすさにつながる取組がされています。

社長さんの夢は10年後、日本で一番働きたいと言われる会社になるということでした。また、地域とのつながりのために来年度には地元の方が自由に使ってもらえる交流広場を作り、女性や障害者の雇用の場も広げられるということで地元に着目した企業としてこれからはますます期待されると思います。

